

## 北海道新幹線並行在来線対策協議会 第8回後志ブロック会議 議事録

〔 日 時：令和3年4月21日（水）15:00～16:00 〕  
〔 場 所：後志総合振興局 2階講堂 〕

### 1 開 会

### 2 挨拶（交通企画監）

### 3 議 題

#### （1）令和2年度事業報告及び決算について

#### （2）設置要領の改正について

事務局から資料1及び資料2について説明。

#### （3）函館線（函館・小樽間）旅客流動調査・将来需要予測・収支予測調査結果について （長万部・小樽間）

事務局から資料3について説明。

#### 【小樽市長】

今回3つパターンをお示しいただきましたが、我々が一番関心を持たなければならないのは、沿線自治体として地元負担がどのくらいになるのかということだと思っております。今回は国や道の補助については考慮されていないと説明がありましたけれども、今後の議論の中で、国や北海道の仕組みがそもそもあるのかどうかということ、あった場合にはどの程度の補助が見込めるのかということ、例えば三セクの場合などで補助制度がない場合については、先行地区では国や都道府県からどういった支援をいただきながら運行しているのかをお示しいただけないかと思っておりますが、この点についてはいかがでしょうか。

#### 【北海道交通企画監（座長）】

第三セクターについては、初期投資の部分については現行の補助制度があります。ただ、運営費については基本的には無く、全国の例だと貨物調整金があって、それで負担しているところがあるのですが、この線区はそういうものに頼れないというのがあります。

それからバスについては、バスの購入に対して直接補助ではないですが減価償却費に対する補助制度があります。また、運営費については、一定の輸送密度があれば、国と道で折半する制度、それ以下の輸送密度であれば道と市町村で折半する制度、それから市町村単独でやる制度、こういった中身になっておりますので、それについては制度を整理して、幹事会などで提示させていただきたいと思っております。

#### 【ニセコ町長】

5ページ目の初期投資の内訳で、先ほどバス会社とは協議していないということだったんですが、JRの資産等についてはJRと協議されたものと理解してよろしいでしょうか。

#### 【北海道交通企画監（座長）】

委託業者が基礎数字は聞いていると伺っているのですが、どう運行するかは想定するしかないもので、そこはJRと詰めたものではないということになっております。先ほど担当課長から説明ありましたとおり、どの財産を引き受けるかも含めて、今後JRと調整していく必要があります。

#### (4) 今後の進め方等について

事務局から資料4について説明。

##### 【北海道交通企画監（座長）】

ただ今ご説明した今後の進め方につきまして、今後、幹事会、担当課長を中心に議論を深めていくということが一つで、この中で地域交通体系のあり方について議論を進めていくということ。

また、余市・小樽間については、さらに別途集まっていたいて、鉄道も含めてバスの輸送がそもそも運べるのかどうかということを中心に議論をしていかなければならないということで、一旦9月頃を目標にブロック会議を開催させていただきたいということがまず1点目。

また交通モードの方向性についても、今後議会、それから必要があれば住民に直接ご説明していただく必要があると思いますので、そういったことを考慮して秋頃までに、何とかこのメンバーでの一定の考え方を示した上で、地域に説明していただくということで進めたいということでございます。

この協議の過程については、できるだけ公開する形で議会、住民の皆様にお示しするというのを原則に今後進めたいと考えています。

#### (5) 意見交換

##### 【小樽市長】

スケジュールについて、地元議会での議論は当然必要になってまいりますので、例えば、9月に第10回のブロック会議が予定されており、ブロック会議が先が良いのか、地元議会が先が良いのか、今、ちょっと私も判断が付きかねているのですが、その辺はご配慮をいただければと思います。

##### 【黒松内町副町長】

まずは本日の会議の内容は行政報告で知らせていこうと思っております。今後幹事会等の進み方を見ながら、このようなスケジュールで進んでいただければと思っております。

##### 【蘭越町長】

今日この資料を見させていただいて、今後整理していくとのことですが、前段小樽市長が申したとおり、私も国・道の補助が考慮されていない中での試算ですから、これを早く幹事会も含めて出させていただきたいというのがお願いです。

それと合わせて、これが先に出ていくことによって、住民はかなり色んな考え方を持っているので、材料がどれだけ必要なんだということ、まず幹事会を含めてやっていただきたいのと、9月にブロック会議をやるのであれば、私は中間でもう一度くらいブロック会議を開いて、沿線自治体の首長方で情報交換しながら進めていくべきではないかと考えております。

##### 【ニセコ町長】

幹事会について、色々議論したものについては、随時、できれば住民の皆さんや議会に報告していきたい。公開前提で進められると思うのですが、経過がわかるような形で住民にお知らせしたいので、ご配慮をお願いしたいと思います。

あと全体の日程につきましては、大変良い日程ではないかと思っております。

### 【倶知安町長】

ただ今、ニセコ町長もおっしゃったように、幹事会、今日も議会や住民への情報発信ということで、どこまで発信するかというところもあるのですが、今日の時点では調査結果ということが中心になると思います。

それと今後のスケジュールということでは、議会あるいは住民の皆さんと共有しながら進めていくのが大変重要な取組だと思っておりますので、そういった意思統一も含めてお願いしたいと思っております。

それと、令和4年度の第11回のブロック会議の時点で、地域交通の確保方策の決定をすることで、ここが目標ラインの意思決定ということで捉えさせていただいて良いのかということの確認と、本当に倶知安駅と北海道新幹線完成というのは、半世紀にもわたる皆さんのお力添えと、先人たち、道民の悲願だと思っております。

そうした中で倶知安駅ができるということは、倶知安駅が町民だけのものではなくて、北海道全体としての重要な施設、役割というものを認識しているところでございますけれども、倶知安駅含め周辺の整備に当たっても、大変厳しい工事日程にならざるを得ないということがありますので、この並行在来線の存廃によって相当大きく変わる部分、それに関連する未解決部分が多くございます。そういったところも含めて、お集まりの皆さんのご理解・ご協力を是非ともよろしくお願いします。

### 【共和町長】

今後のスケジュールですが、基本的にはこういう形によろしいじゃないかと思うのですが、先ほども蘭越町長がおっしゃっていましたが、議会への報告、住民対応がございまして、幹事会を9月まで続け、9月でようやくブロック会議ということで整理をしていますが、できるならば中間あたりでブロック会議の場が作ればよろしいのではないかと考えています。こういう状況下にあると議会にも説明しなければならない、そんな思いでいます。

非常にタイトなスケジュールになっているかと思うのですが、ここはお互いに理解し合い、手をつないでいくことが望ましい。是非よろしくお願いします。

### 【仁木町長】

私自身は概ねこのスケジュール感で問題はないと感じるところでございますし、そもそもスピード感を持って、短期間の中で決めなければいけないという中では、この9月までに幹事会を毎月行うという、ただ短期間でスピード感を持ってやるにはさらに慎重にやらなければいけないという部分を含めて、先程来出ていますブロック会議を開催することは当然のことであると私も聞いていて感じました。

そういったことも含めて、我々も何度出ようと惜しまないので、そういった部分では皆さんと意見交換や意識共有をしながら、スケジュールをしっかりとスピード感のある中で進めていければと思っております。

### 【余市町長】

スケジュールに関しては、特段私からはコメントはありません。

### 【長万部町副町長】

私もスケジュールについては何も申し上げることはありませんが、渡島ブロックもございまして、そここのところの調整もお願いしたいと思っております。

### 【後志総合振興局長】

振興局の立場としては、引き続き、市町の立場に立っていきたいと思っておりますけれども、スケジュールは今示されましたが、中間中間で質問ですとか、ご意見がございましたら、私どももお聞きして、本庁の方に伝えて、しっかり情報共有図っていきたく思いますし、この検討の過程の中で色々アイデアが出て、振興局で取り組めるようなものがありましたら、色々取り組んでまいりたいと思っておりますので、引き続き忌憚のないご意見をいただければ有り難いので、よろしくお願ひいたします。

### 【北海道交通企画監（座長）】

皆さんのご意見をまとめさせていただくと、月1回幹事会を開いて進めていくことのご了解いただいたということと、それからブロック会議については、1回ということで想定していますが、ブルーのライン（7月）のあたりでもう1回くらい開催してということ。それから、余市・小樽間については、別途検討するという事。

その上で、このブロック会議の持ち方については、議会の開催時期との調整をしたいということで、第2回定例会には間に合わないかもしれませんが、第3回定例会にはしっかりと。その前にやるか、後にやるかの判断も含めて、今後の幹事会での議論の行方を見ながら、皆さんには相談させていただくという形で思っています。

いずれにしても、倶知安町長からもありましたとおり、新幹線建設工事との関わりも恐らく今後出てくるんだろうと思われまますので、そういったことも含めて、今後幹事会の中で今日の会議も含めまして、事務局の方で要約版を作らせていただきます。その形で公開するという事で、後ほど各町にも確認させていただきますので、よろしくお願ひしたいと思います。

### 【余市町長】

余市・小樽間については輸送人員が多いので別途検討するという事ですが、ここにいくつか付け加えた方が良い点があるので、それを申し上げておきますと、輸送人員が2,000人くらいいるということで、実際の数値だけ見たら釧路より多いというデータになっているわけがございます。

このような輸送人員をいかに迅速に、多く輸送するかという話ですけれども、この点につきましては国土交通省を巻き込みながら、今、BRTシステム、バスの大量輸送システムについての協議会等が立ち上がっていると思っておりますので、その点を一緒に議論を深めていくですとか、協議会の中に、BRTの都市交通がメインになってくると思いますが、余市・小樽間のように、ある程度輸送人員がいながら線路が無くなるケースというのはモデルケースといえますか、非常に良い事例になると思っておりますので、その点は国交省の委員会の中に我々を入れていただき、それで地元にも反映させて、他の政策にも反映させていくということも念頭に置いた方が良いのではないかと思います。

あと実際に具体的なオペレーションに入っていく場合には、JRとも議論する必要があると思っております。実際のところ並行在来線の経営分離に関しては、我々サインをしているところでもありますけれども、場合分けをして、余市・小樽間に関しては、維持できる可能性もあると、JRとも議論する必要があるのではないかとこの1点です。

あとは、実際のオペレーション時に、資料ですとバス1台で輸送できない場合は複数台つないでという記載がありましたけれども、実際の論点として、バスの運転手確保という課題がございますから、その点は諸外国、今東京でオリンピックの輸送の一部に活用していますけれども、2連バスですとか、そういうバスを走らせる可能性ですとか、仮に並行在来線無くなった場合の仮定の話ですけれども、線路用地を走って輸送することが可能ですから、そういう詳細な論点も付け加えた方が良くないかと思っております。

**【北海道交通企画監（座長）】**

2,000人運ぶというのは大変なことだというのは理解しておりますので、恐らく事業主体になる中央バスもしくはJRバス、こういった会社としっかり協議しながら、BRT含めまして、連節バスといったものがないと今後の対応ができないかもしれませんので、多様な角度から検討を深めていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

**【余市町長】**

ある程度輸送人員がある場合は、国の予算制度がございますので、早い段階で、北海道だと運輸局、国だと国交省を巻き込みながら、やっていった方が良いんじゃないかと思っております。

**【北海道交通企画監（座長）】**

鉄道局とそれから関係のバスのところとしっかりやっていきますので、よろしくお願いいたします。

**【ニセコ町長】**

先ほどのスケジュールのところ、令和4年の第11回ブロック会議で方向性を決定するということですが、この間の認識の確認という意味では、令和4年4月から12月の間に、議論に応じて決定したいという認識でよろしいですか。

**【北海道交通企画監（座長）】**

もちろん議論の進み具合もありますけど、令和4年のなるべく早い時期に結論を出すことが将来の交通を確保する上で時間的に必要ではないかということなので、その間でということになるかと思っております。

**4 閉 会**